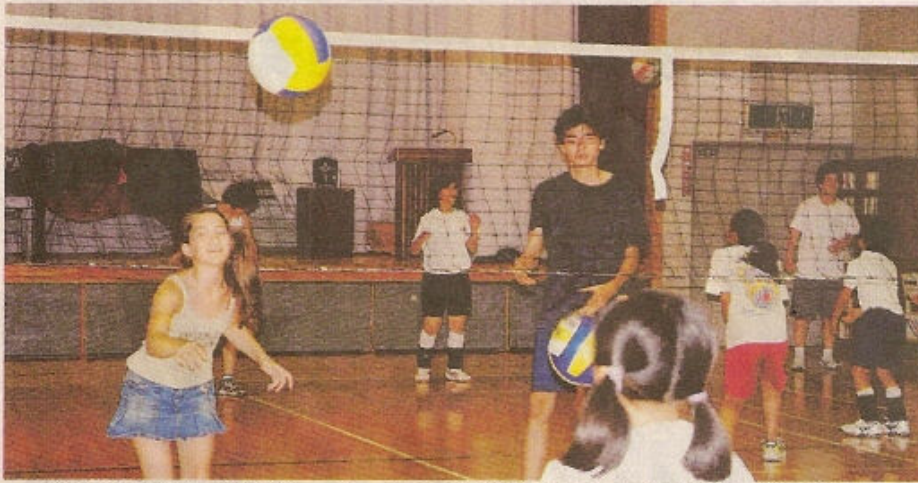


# 米国在住の子どもら宿泊研修 揖斐川町



英語と日本語を交えバレーボールで交流する子どもら＝揖斐川町谷汲木曾屋、ラーニングアーバー横蔵

## 地域住民と交流の輪

米国在住の子どももが参加したサマーキャンプが十八日まで、揖斐川町谷汲木曾屋の宿泊研修施設ラーニングアーバー横蔵で行われている。十四日には、揖斐川町谷汲地区のバレーボールクラブとの交流会があり、英語と日本語を交えながら日米両国の子どもが交流を深めた。

サマーキャンプを実施しているのは米日教育交流協議会で、実施期間は七月二十六日まで（第一期と、同月二十三日～八月六日まで（第二期）。運営には揖斐川町内のNPO法人など四団体が協力している。実施は今年で三年目。第一期に参加したのは、米国の学校に通う小学四年生から高校一年生までの十人。子

西方  
見聞録

## 学校訪問やバレー楽しむ

どもらは両親が日本人だったが、日米のハーフだが、生活拠点が米国にあるため、日本語や日本の生活習慣に慣れている。

今回来日した子どもらは、地域の学校を訪れたり、町内でホームステイをしたほか、坂内地区のかやぶき屋根の家に宿泊して過ごしてきた。サマーキャンプの目的について、同協議会では「将来、日本語や日本文化を知らないで困ることもある。日本語を学ぶ動機付けになれば」と期待する。

十四日にラーニングアーバー横蔵で、バレーボールクラブの子どもらとミニゲームなどを楽しんだ米・シカゴ市から参加の中西健君（四）は「自然体験や日本の学校生活で驚くことも多かった。いろいろな体験ができて良かった」と満足そうな表情。一方、バレーボールクラブ監督の山口博美さん（四）は「交流を機に英語や国際社会に関心を持つ子どもが増えた。キャンプが両国の子どもに良い影響を与えている」と話していた。

（瀬見井芳信）